

受 託 事 業

I 歴史関連事業及び歴史関連施設の管理運営の受託

1 本館管理運営

東京都江戸東京博物館の施設・設備及び物品の維持管理、観覧料等の徴収事務、利用者サービス業務等を行った。

2 たてもの園管理運営

江戸東京たてもの園の施設・設備及び物品の維持管理、観覧料等の徴収事務、利用者サービス業務等を行った。

3 博物館ボランティア

市民とのコミュニケーションを豊かにし、市民の協力や協働のもとに生涯学習社会にふさわしい市民に親しまれる開かれた博物館を目指して館の活性化を図るため、江戸東京博物館（本館）では平成9年10月1日、江戸東京たてもの園（分館）では平成8年12月4日からボランティア制度の試行実施を行った。

本年は、本館243名、分館186名体制により、本館では9,507件のガイド、分館では茅葺き農家の燻煙及び団体案内ガイド、自主活動等を行った。

(1) 本館ボランティア

① 登録人数（平成19年3月31日現在）

243名（女性168名、男性75名）

② 活動日時

火曜日～日曜日（開館日） 10:00～16:00

毎日15人程度のグループで活動

③ 活動内容

日本人及び外国人来館者に対する案内、団体来館者に対する事前案内

日本語、英語、ドイツ語、中国語、フランス語、ハンガール語、スペイン語、ロシア語

江戸東京の伝統・文化に関するワークショップの運営

④ 対応件数（平成18年4月～19年3月）

外国語による案内件数 3,675件

日本語による案内件数 5,656件

団体事前案内件数 96件

下見（実踏）の案内件数 3件

子ども相談対応 13件

スポット解説 64件

(2) たてもの園ボランティア

① 登録人数（平成19年3月31日現在）

○正規ボランティア「ひじろ会」 186名（女性65名、男性121名）
火曜日班30名、水曜日班33名、木曜日班34名、金曜日班30名、
土曜日班33名、日曜日班26名

○臨時ボランティア 48名

② 活動日時

火曜日～日曜日及び臨時開園日 10:00～17:00

（10月から3月は16:00まで）

③ 活動内容

○正規ボランティア

茅葺き農家の燻煙と周辺整備…4棟（吉野家、八王子千人同心組頭の家、天明家、
綱島家）

案内ガイド（団体・見所案内・建造物ごと・定時）

たてもの園事業への参画（催事の企画・実施、学校連携事業、年中行事等）

自主活動の実施（写真館での撮影、藁細工、風車作り、紙芝居、盆栽、農園作業等）

○臨時ボランティア

催事の支援

正規ボランティアの活動支援

④ 対応件数等

茅葺き農家の燻煙と周辺整備（休園日を除き毎日）

団体案内ガイド 287件 8,787人

ボランティア自主活動 21種 870回

⑤ その他

正規ボランティアは10回の勉強会と、横浜市内への見学会など2回を企画・実施した。また、ボランティアメッセ2006（平成18年9月22日～24日、九州国立博物館）に参加し、他館のボランティアと交流した。

4 資料収集

本年度は7年ぶりに購入予算が復活し、資料購入が再開された。また寄贈資料についても申出のなかから厳選して、収集した。資料の選定にあたっては、常設展の資料替えのための資料、常設展示の充実のための資料、博物館の目玉となるような資料、歴史的に保存すべき資料の収集に努めた。

収集実績（収集委員会付議点数）

（単位：点）

区 分	購 入	寄 贈	その他	計	19年3月末累計
標 本 資 料	396	5,952	41	6,389	220,664
図 書 資 料	0	4,874	0	4,874	159,619
映像音響資料	0	894	4	898	23,361
合 計	396	11,720	45	12,161	403,644

※この他、通年収集され来年度収蔵委員会に付議される購入の逐次刊行物664点

(1) 主な購入資料（平成18年度）

万都能作嘉遍 上・下巻

揚屋図（丁字屋）

子供の影絵遊び

(2) 主な寄贈資料（平成18年度）

風船爆弾関係資料

軍人柄の男児被布

関東大震災地震日記扇子

5 資料制作

(1) 複製資料

- ① 資 料 名 江戸城御本丸惣地絵図（万延度御普請）
 点 数 1点
 説 明 江戸城は、1859年（安政6）に焼失し、その後1860年（万延元）に建て直された。そのときに製作された絵図面。作者は甲良若狭棟全。資料自体が372.0×465.0と大変大きく、展示ケースに入らないため、展示しやすいように資料自体を縮小したものを製作した。
- ② 資 料 名 嘉祥菓子
 点 数 12セット
 説 明 江戸幕府の年中行事を紹介する立体資料が少ないため、展示効果がある。虎屋が、『嘉定私記』（文化6年1809）に記された菓子を実物製作するが、「生物」であるため、食品サンプルの技術により複製製作にする。常設展「総城下町江戸」や「武士の暮らし」コーナー等で展示。
- ③ 資 料 名 熙代勝覧（表具）
 点 数 1点
 説 明 文化年間の江戸の様子を描いた絵巻物。江戸の風俗を知るのに最適の資料である。実物はベルリン東洋美術館で購入した簡易な複製であるため未表装であるので、表具することで、展示の利便性をはかる。
- ④ 資 料 名 熙代勝覧（印刷）
 点 数 1点
 説 明 文化年間の江戸の様子を描いた絵巻物。江戸の風俗を知るのに最適の

資料である。現在館の所蔵する複製は、ベルリン東洋美術館で購入した簡易な印刷であるため、和紙を素材とする質感のある精巧な複製をつくることで、展示の利便性をはかる。

- ⑤ 資料名 錦織歌麿形新模様（浮世絵摺順序）
 点数 120点
 説明 浮世絵「錦織歌麿形新模様」が完成するまでの摺りの順序を紹介。板木12枚をあわせて常設展示室に展示している。経年変化による褪色が著しく、来館者サービスに支障をきたしているため。展示中の板木を使い、順序摺を5セット作成する。作成後は、現在展示中の複製と差し替える。

6 資料管理・保全

(1) 資料の修理

65件（234点）の修理を行った。

【内 訳】

資料分類	件数	点数	資料分類	件数	点数
標本資料	64	149	図書資料	1	85
絵画	59	82	図書	1	85
書跡	1	1			
工芸品	2	2	映像音響資料	0	0
生活民俗	1	1	映像	0	0
典籍	0	0			
古文書類	1	63			
印刷物	0	0			

(2) 資料の収蔵

平成19年3月末日現在、518,218点（データ点数）を収蔵、管理している。

【内 訳】

標本・映像音響資料 326,632点（うち分館収蔵庫収蔵分 23,258点）
 図書資料 191,586点（うち分館収蔵庫収蔵分 18,796点）

(3) 資料の貸出

平成19年3月末日現在、博物館等の依頼に応じて、31件（191点）の資料を貸し出した。

7 常設展示

江戸東京博物館5・6階の常設展示室(8,934 m²)において、定期的に展示替えを計24回行い、常時約2,000点の資料を展示するとともに、企画展（17年度までの第2企画展を18年度より企画展とする）や特集展示を実施した。その際、展示資料の管理、温湿度等展示環境の維持を行った。さらに、常設展の賑わい・楽しさを演出したほか、特集展示への資料提供を行った森永製菓株式会社との事業協力により「黄色い箱の思い出展－森永ミル

クキャラメルコレクション」を、伝統芸能・文化を支援する読売新聞社との事業協力により「三遊亭金馬展」「美空ひばりと昭和のあゆみ展」「北斎展－風景画の世界」を実施し、常設展の集客をはかった。

(1) 企画展

- ① 三遊亭金馬展（5月13日～6月11日）
- ② 市民からのおくりもの－平成17年度収集新収蔵品－展（5月16日～6月11日）
- ③ 発掘された日本列島2006展（6月20日～7月23日）
- ④ 美空ひばりとあゆむ昭和展（7月29日～10月1日）
- ⑤ 荒木経惟「東京」プロジェクト「東京人生」展（10月17日～12月24日）
- ⑥ 北斎展－風景画の世界（1月2日～2月12日）
- ⑦ 江戸博の雛祭り展（2月20日～4月1日）

(2) 特集展示

- ① 両国の御輿大集合（4月29日～9月15日）
- ② 黄色い箱の思い出－森永ミルクキャラメルコレクション（6月6日～9月3日）
- ③ 考古速報地域－東京前史展（企画展「発掘された日本列島2006展」関連展示）
（6月20日～7月23日）
- ④ かわいそうなゾウ－戦時中処分された動物たち－展（7月11日～11月26日）
- ⑤ 江戸の夏展（7月24日～8月28日）
- ⑥ 夢大からくり2007展（1月2日～2月12日）
- ⑦ 東京都名誉都民西山鴻月コレクション 押絵羽子板展（1月2日～1月8日）
- ⑧ 館蔵新春羽子板展（1月9日～2月12日）
- ⑨ 徳川家茂とその時代展（1月2日～3月4日）
- ⑩ 映画「あかね空」の世界－深川と江戸の食－展（2月27日～5月27日）
- ⑪ 東京オリンピック展（年間展示）

(3) 常設展の賑わい・楽しさの演出

- ① 「えどはく寄席」（毎土・日の12:00～12:30、13:30～14:00）

観覧者数（下記2、3を除く）：68,058人

中村座前で、落語、新内、相撲甚句、かっぽれ、女義太夫などを実施し、伝統芸能の継承・普及と若手芸人の育成を図る。

とくに、5月13日（土）から6月11日（日）の土日は、企画展「三遊亭金馬展」の関連事業として位置づけ、「三遊亭金馬喜寿記念特別企画 新真打ち登場」と銘うって、三遊亭金時のプロデュースにより落語を中心とした公演を行った。

- ② えどはく寄席夏休み特別企画（7月22日～8月6日、8月12日～8月20日）

観覧者数：10,657人

落語、講談（怪談）、太神楽曲芸、売り声、バイオリン演歌等、芸と音で江戸東京を展示、演出。

③正月の催し（1月2日～1月8日）観覧者数：8,348人

獅子舞、太神楽曲芸など正月らしいパフォーマンス（1月2～3日）を1階ロビー等で行ったほか、からくり実演、歌舞伎の衣裳スペシャルトーク等実施。

④ミュージアムトーク（毎週金曜の16:00～16:30）参加者数：2,157人

学芸員による展示解説。企画展や特集展などの特別企画のほかに常設展示各コーナーにおける展示内容を詳しく紹介する。

常設展観覧者実績

区分	平成18年度(B)	対前年比(A/B)	平成17年度(A)
一般	432,265人	139%	310,482人
学生	32,083人	119%	26,853人
高校生、都外中学生	64,501人	115%	56,228人
65歳以上	107,449人	141%	76,088人
無料観覧者 (小学生、都内中学生、 教育活動、視察)	430,928人	134%	320,415人
合計	1,067,226人	135%	790,066人
1日あたり観覧者数	3,378人	131%	2,574人

8 コンピュータシステム（情報システム）の運営

資料の収集から資料の各種事業（常設・企画展示、調査研究、資料のメンテナンス、貸出等）への活用までを支援するとともに、来館者に対して図書室の来館者端末等により資料の情報を文字と画像で提供するため、コンピュータシステム（情報システム）の管理及び運用を行った。

9 AVシステム（映像音響システム）の運営

「館内CATV」「文字ディスプレイ」及び「展示解説システム」により施設・催事案内や常設展示の解説を行うとともに、「映像ホール」「映像ライブラリー」において江戸東京に関連する映像ソフトを提供した。

(1)映像ホール

上映回数	1日8回（土曜日9回）上映
入場者数	44,474人（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(2)映像ライブラリー

設置ブース数	28台（76人利用可）
映像ソフト数	399タイトル（平成19年3月31日現在）
利用回数	入場者数 72,606人（平成18年4月1日～平成19年3月31日） アクセス回数 22,157回（平成18年4月1日～平成19年3月31日）

(3) 収蔵庫からのメッセージ

設置台数	5台
映像入力数	24, 231枚 (内8, 212枚公開) (平成19年3月31日現在)

(4) Web版収蔵庫からのメッセージ

映像入力数	166点 (平成19年3月31日現在)
-------	---------------------

10 図書室の運営

博物館資料として収集した図書の保存及び来館者への閲覧、レファレンスサービスを行った。

図書室利用状況

入室者数	34, 041人 (平成18年4月1日～平成19年3月31日、以下同)
閉架図書請求	3, 921冊
マイクロフィルム請求	610件
複写請求	3, 461件
マイクロフィルム複写	373件
レファレンス	2, 667件
インフォメーション	1, 457件
利用者数	38, 165人 (入室者数+レファレンス+インフォメーション)

11 野外収蔵 (分館「江戸東京たてもの園」)

平成19年3月31日現在、27棟を公開している。なお移築対象建造物の復元工事は休止している。

(1) 入園者実績

区分	平成18年度(A)	対前年比(A/B)	平成17年度(B)
一般	109, 394人	99.9%	117, 924人
大学生・専門学校生	11, 520人	95.8%	11, 813人
高校生、都外中学生	3, 397人	91.4%	3, 021人
65歳以上	31, 237人	110.3%	30, 573人
無料観覧者 (小学生、都内中学生、教育活動等)	102, 619人	106.6%	102, 197人
合計	258, 167人	103.2%	265, 528人
1日あたり観覧者数	830人	103.2%	857人

(2) 特別展

今年度は、世相を反映するものや季節に合わせた特別展など、3本開催した。

- ①「できゆくタワーの足もとでー昭和30年代の暮らし」展

期 間 平成17年11月23日（水）～平成18年9月3日（日）
内 容 昭和33年の町工場の家族の暮らしの様子を、冬の夜に設定し間取りごとに
展示。
入園者 204,389人

②「初春の雅」展

期 間 平成19年1月5日（金）～3月4日（日）
内 容 江戸東京博物館収蔵資料の中で、季節に合った工芸品や錦絵等を紹介。
入園者 35,256人

③「新東京百景」展

期 間 平成19年3月17日（土）～5月6日（日）
内 容 新東京百景(昭和4年制作と昭和57年制作)シリーズを紹介するとともに、
都市の変化を概観

(3) 下町通り伝統芸「体験！発見！職人さん」

建物や伝統工芸をつくる大工や職人の技に注目して、実演や体験講座を園内各所で実施した。また建物をより詳しく紹介する企画として、普段公開していない商店の2階、3階や地下室、納戸なども案内する「たてもの特別公開」をボランティアの協力によって実施した。

期 間 平成18年11月11日（土）、12日（日）の2日間
会 場 江戸東京たてもの園 全域での展開
内 容 伝統工芸の実演11種、伝統工芸の体験10講座
建造物特別公開 26棟
ノコギリ挽き、カンナがけ、土壁塗り等体験
参加者数 2,092人

(4) 伝統工芸の実演

江戸東京に残る伝統工芸の実演を行った。

期 間 平成18年4月～19年3月のうち24日間
会 場 江戸東京たてもの園 植村邸、川野商店他
内 容 東京手描き友禅、和裁、江戸指物、のれん染、江戸扇子、つまみかん
ざし、彫金、木版画摺師、江戸切子、飴細工、帯仕立て、べっ甲、木
彫（透かし彫り）、東京籐工芸、村山大島紬
観覧者数 当日入園者

(5) 情景再現事業

「七夕折り紙教室」「正月お飾りづくり」2回の体験型情景再現を開催し、延べ199人の参加があった。また今年度は情景再現事業の一環で、季節ごとの催しとして、春「子

どもの日」、夏「下町夕涼み」、冬「はらっぱ大会」の各イベントを行った（秋のイベントは例年開催している下町通り伝統芸「たてもの園フェスティバル」）。

①七夕イベント

茅葺民家での折り紙づくり（1日2回×2日）を行い、短冊に願いごとを書く体験講座。同時にワークショップ「オリジナル吹き流し」と「七夕写真撮影会」を実施

期 間 平成18年6月24日（土）、25日（日）
会 場 江戸東京たてもの園 吉野家（農家）、天明家（農家）、常盤台写真場
指 導 たてもの園ボランティア、職員、東京学芸大学書道専攻有志
参加者数 109人（折り紙教室）

②クリスマス・リースづくり

園内の樹木を使ってクリスマス・リースを作る体験講座。

期 間 平成18年11月25日（土）、26日（日）の2日間
会 場 江戸東京たてもの園 ビジターセンター、田園調布の家（大川邸）
講 師 たてもの園ボランティア、職員
参加者数 50人

③正月飾りづくり

ワラを使った正月飾りを作る体験講座。

期 間 平成18年12月9日（土）、10日（日）の2日間、4回
会 場 江戸東京たてもの園
講 師 たてもの園ボランティア、職員
参加者数 82人

④「子どもの日イベント

たてもの園えどまる王国化計画—再燃!我らの国王選挙戦」

買い物ゲーム、泥団子作り、チャンバラ、兜・風車づくりの各会場で、国王立候補者が選挙活動を行い、有権者の子どもたちは一番面白かったものに投票。

期 間 平成18年5月4日（木・休）5日（金・祝）の2日間
会 場 江戸東京たてもの園 西ゾーン、東ゾーン
参加者数 10,014人

⑤夜間開園「下町夕涼み」

盆踊り、寄席、映画野外上映を行い、また、建物を使用して夏の夕涼みの風情を再現。

期 間 平成18年8月5日（土）、6日（日）の2日間
会 場 江戸東京たてもの園全域
参加者数 12,827人（当日来園者）

⑥「はらっぱ大会」

チャンバラ大会、ベーゴマ大会、子宝湯での足湯などを実施した。

期 間 平成18年2月11日（日・祝）、12日（月・休）の2日間
会 場 江戸東京たてもの園全域
参加者数 4,701人（当日来園者）

(6) 学校連携事業

「藍の育成と藍染め体験」「大根の栽培と大根干し」「昔のくらし体験」「ひじろっ子（子どもボランティア）」「教員研修」「教員初任者研修」「校外学習」「職場体験」を実施した。

①藍染め体験

建染めを行い、染色体験をした。

参加校：4校

②大根の栽培と大根干し

間引きなどの大根の世話と大根干しを体験し、保存食について学習した。

参加校：1校

③昔のくらし体験

園内茅葺き民家内などで、石臼での粉ひきや火鉢体験、雨戸の開け閉めなどを体験するほか、昔の道具探しなどを実施した。

参加校：52校

④子どもボランティア「ひじろっ子」

夏休み期間中に、小学生の「小さな社会貢献」として茅葺き民家の掃除、民家の解説、独楽や竹馬などの遊びの指導、小金井公園桜守とともに桜の調査などを行った。

また、イベント時にはボランティアとして園の事業を支援した。

参加人数：59人

⑤教員研修

小金井市、国分寺市、小平市、西東京市等の教員に対し、学校連携での活用方法等の研修を行った。

参加人数：98人

⑥教員初任者研修

小金井市、小平市の教員初任者に対して、3日間の学校外活動（ボランティア活動）として、当園ボランティア活動に体験参加した。

参加人数：16人

⑦校外学習

都立高校生がボランティア活動及び体験学習を行った。

参加人数：3人

中学生が各自テーマに沿った調べ学習を行った。

参加人数：21名

⑧職場体験・職場訪問

中学生が職場を訪れ、体験やインタビュー等により、仕事について学んだ。

参加人数：24人

(7) その他の事業

①「朝顔市・ほおずき市」

早朝開園し朝顔・ほおずき・つりしのぶを販売。農協による野菜・苗木の販売等。

期 間 平成18年7月7日（金）、8日（土）、9日（日）

入園者 3, 243人

②「たてものとのりもの」

ボンネットバスの運行、人力車やリntaxの乗車体験。懐かしい車の展示など。

期 間 平成18年9月17日（日）、18日（月・祝）

入館者 2, 479人

③「復活！大運動会」

大玉転がし、どじょうすくい、パン食い競争など懐かしい種目に老若男女が参加。

期 間 平成18年10月8日（日）、9日（月・祝）

入館者 5, 447人

④「たてもの園 正月遊び」

羽根つき、ミニ凧あげ、福笑いなどの正月遊びや書き初め、餅つき体験、江戸凧づくりや曲独楽・投扇興など。

期 間 平成19年1月7日（日）、8日（月・祝）

入園者 3, 256人

⑤「春先キモノ日和 キモノの手ほどき、キモノの着こなし」

昔キモノ体験・販売、ふろしき入門講座などの和の装いの紹介と、落語、邦楽、お茶会など和装で楽しめる催しを企画。

期 間 平成19年3月24日（土）、25日（日）

入園者 2, 681人

13 調査・研究

これまでの都市歴史研究室では、以下の3カテゴリーを設定して、研究活動を実施してきた。

- ①課題研究＝研究室に所属するスタッフが個別にテーマを設定する研究
- ②系列共同研究＝歴史・生活文化都市構造の三系列にそってテーマを設定する共同研究
- ③基礎研究＝館蔵資料に関する研究

平成18年度、カテゴリーを以下のように再編した。

- ①年間特定研究＝研究室に所属するスタッフ全員が、館事業との関連をはかりつつ設定したテーマに沿って行う研究
- ②共同研究＝館外の研究者と共同で行う共同研究
- ③課題研究＝研究室に所属するスタッフが各自設定する個別研究

これらの研究成果は、えどはくカルチャーといった教育普及活動、常設展示や特別展などといった展示事業に反映するばかりでなく、博物館のクオリティの向上を図り、リピーターの確保につとめた。

(1) 年間特定研究「城郭都市 江戸と江戸城」

① 研究会

9月8日 市川寛明「シンポジウムのテーマおよび方向性について」

10月13日 市川寛明「江戸城大手門の警衛と人宿」

11月17日 田原昇「江戸幕府「五役」の者の人員補充 ～無足部屋住御雇と公儀人足を事例に～」

1月13日 大口勇次郎「江戸城の経営と消費 ―ヒト・モノ・カネの出入りから―」

松尾美恵子「将軍家奥向きの経済」

太田尚宏「江戸城における消費物資の調達について」

特別企画展「江戸城展」とのリンクをはかり、これらの研究成果は、シンポジウム「江戸城研究の新視点 第二部 江戸城の経営と消費」(平成19年1月27日実施)、えどはくカルチャー「江戸城入門講座」(秋)・「江戸城講座」(新春)に反映させた。シンポジウムにおける研究報告は、平成19年度刊行の東京都江戸東京博物館研究報告14号へ掲載される予定。

(2) 共同研究

① 「東北大学附属図書館所蔵「狩野文庫」に関する共同研究」

東北大学との共同研究。3カ年計画の一年目で2回にわたって出張調査を行い、研究交流を促進した。

② 「赤木清士氏収集産業技術史関係資料の調査研究」

担当:小澤弘・松井かおる・小林淳一・石山秀和

成果:『調査報告書』第19集として刊行

(3) 課題研究

① 小澤弘「城郭都市・江戸のイメージ」

成果:えどはくカルチャー・出前講座

② 松木寛「幕府建築と狩野派 ―江戸城を中心に―」

成果:えどはくカルチャー・出前講座、江戸博ニュース

③ 市川寛明「江戸城門番に関する研究」

成果:えどはくカルチャー・出前講座

④ 米山勇「江戸東京の「建築―都市」史研究」

成果:たてもの園特別展、写真美術館企画展、えどはくカルチャー・たてもの園セミナーほか

⑤ 石山秀和「都市江戸にみる能楽の展開」

成果:えどはくカルチャー・出前講座

⑥ 高山慶子「江戸の町の制度に関する研究」

成果:えどはくカルチャー・出前講座、研究報告13号(史料紹介「檜物町の草創名主」)

⑦ 田原昇「市場としてみた江戸城への人・物の出入りに関する研究」

成果:シンポジウム、えどはくカルチャー・出前講座など

(4) シンポジウムの開催

開催日 平成19年1月27日(土)
会場 江戸東京博物館 1階大ホール
テーマ

全体テーマ「江戸城研究の新視点」

第1部「徳川家康・秀忠と江戸城」

- 問題提起 齋藤慎一(江戸東京博物館)
【報告1】発掘調査からみた江戸城 後藤宏樹(千代田区四番町歴史民俗資料館)
【報告2】織豊城郭瓦と江戸城 加藤理文(織豊系城郭研究会)
【報告3】織豊城郭としての江戸城 中井均(織豊系城郭研究会)

第2部「江戸城の経営と消費 ～ヒト・モノ・カネの出入りから～」

- 趣旨説明 小澤弘(江戸東京博物館)
【報告1】問題提起「経済システムとしての江戸城」 大口勇次郎(お茶の水女子大学名誉教授)
【報告2】将軍家奥向きの経済「奥之番」の記録から 松尾美恵子(学習院女子大学)
【報告3】江戸城における消費物資について 太田尚宏(徳川林政史研究所)
【報告4】江戸城大手門の警衛と人宿 市川寛明(江戸東京博物館)
【報告5】江戸幕府「五役」の人員補充「部屋住御雇と公儀人足」 田原昇(江戸東京博物館)

人数 第1部 382人 第2部 373人

(5)書籍の編集・刊行

①『調査報告書』第19集の刊行

名称 『科学技術黎明期資料 ー赤木コレクション』
発行年月日 平成19年3月31日
発行部数 1000部
構成

- I 赤木コレクションデータベース編
II 論考篇
i. 我妻直美「和装西洋男女図について」
ii. 横江文憲「蜷川式胤旧蔵のカメラについての考察」
iii. 松井かおる「アルバムと瓶 ークリフォード・ウィルキンソン旧蔵アルバムについて」

②『研究報告』第13号の刊行

江戸東京博物館での研究成果を公表するため、『東京都江戸東京博物館研究報告』第13号を刊行した。

構成

- I. 特集1 シンポジウム「日本橋・銀座・汐留 ーにぎわいの街ー」
i. 伊藤毅「町割りの形成」
ii. 田原昇「町の意味づけの変遷」
iii. 米山勇「モダン都市の街と建物」
iv. 初田亨「「繁華街」の形成と発展」
v. 菅原定三「銀座医ライオンをめぐる人びと」

vi. 三枝進「銀ブラ文化に未来はあるか。」

II. 特集2 江戸東京たてもの園セミナー

「建築家デ・ラランデと日独建築交流」

i. 坂本勝比古「ドイツ人建築家G. デ・ラランデとその周辺」

ii. 堀内正昭「日本に影響を与えたドイツ人建築家」

研究ノート 河村三枝子「展覧会における広報媒体の選択」

史料紹介 高山慶子「江戸檜物町草分名主 星野家文書について」

発行年月日 平成19年3月31日

発行部数 1,000部

(6) 学芸員実習の受け入れ

将来の博物館を担う人材の育成と、当館の博物館活動の社会還元のために、学芸員資格取得に必要な博物館実習を受け入れた。

実習受け入れを通知した機関 252 (申込者数35名)

受入者数 19名

期 間 8月21日(月)～9月1日(金)

カリキュラム

	実施日	スケジュール	実施内容	実施形式	担当係
1	8月21日 (月)	午前	【オリエンテーション】 館長挨拶・概要説明・館内外動線 及び主要施設案内・自己紹介	講義・見学	都市歴
		午後	【管理施設】管理施設案内	講義・見学	管理係
			【企画展示】企画展示ができるまで	講義・見学	展示係
2	8月22日 (火)	午前	【図書室の運営】 図書室・図書資料の概要と見学	講義・見学	資料図書係
		午後	【常設展示(1)】常設展示の 概念	講義	展示係
			【常設展示(2)】常設展示の見学	見学	
3	8月23日 (水)	午前	【営業活動】営業活動について	講義・見学	展示係
		午後	【映像施設の運営】 映像施設の概要と見学	講義・見学	
			【資料の保管・管理】 資料の保管の方法(クリーニング 実務など)、管理システム	講義・実習 見学	資料図書係
4	8月24日 (木)	午前	【ボランティア活動】 ボランティア解説体験(受け手側)	見学体験	展示係
		午後	【ボランティア活動】 博物館ボランティアについて	講義	
			【たてもの園(於本館)】 園概要説明、移築復元の講義	講義	たてもの園
5	8月25日 (金)	午前	【たてもの園(於:たてもの園)】 建物現場見学	見学	たてもの園
		午後	【たてもの園(於:たてもの園)】 園内業務実習、自由見学	実習・見学	

6	8月28日 (月)	午前	【教育事業】教育事業の概要	講義	実習PT
		午後	【常設展示】 常設展示替え作業の見学・解説	見学	展示係
			【第2週目オリエンテーション】 2週目概要説明・館長挨拶	講義	都市歴
7	8月29日 (火)	午前・午後	【資料の収集・取扱い】 標本資料の取扱い(軸・卷子) 資料カードの作成 資料写真撮影	実習	展示係 実習PT
8	8月30日 (水)	午前・午後	【展示実習】会場設営	実習	展示係 実習PT
			【展示実習】展示テーマ検討		
9	8月31日 (木)	午前・午後	【展示実習】 キャプション作成・展示作業	実習	展示係 実習PT
			【展示実習】展示作業		
			【展示実習】批評会		
10	9月1日 (金)	午前	【広報実習】広報計画作業	実習	普及係 実習PT
		午後	【広報実習】発表会		
			【学芸員実習のまとめ】 実習総括(室長・副館長)	講義	都市歴

(7)その他の研修受入

- ①東京都新入職員研修 平成18年5月16日(600名)
- ②東京都教職員10年目研修 平成18年7月25日～27日(3名)
- ③首都大学東京の学生研修 平成18年9月19日～22日(3名)
- ④学習院女子大学インターンシップ 9月4日～9月22日(1名)
- ⑤東京未来塾(東京都教育庁、都内高校生47名)

第1回12月12日/第2回12月19日/第3回12月26日(東京都教職員研修センター)

(8)博学連携

当館の入館者増とリピーターの確保及び平成14年度から実施された完全学校週五日制と「総合的学習」に対応するため、博物館と学校との連携事業を展開した。当館を学習の場として希望する生徒を対象に「訪問学習」を実施した。

平成18年度から、都内中学校で要請があった学校からの「職場体験」の依頼にも対応を始め、主に常設展示室の体験コーナーでの昔遊び実演補助などの体験機会を提供している。

①訪問学習の実施

博学ボランティア(11名)－歴史学習対応

学芸員－職場訪問、平和学習対応

参加人数 77人

参加学校数 94校(中学校90 高等学校4)

②職場体験の実施(主に5階体験コーナーでの)

参加人数 24人

参加学校数 7校(中学校)

14 広報・出版

(1) 本館

種 別	名 称	実 績
館内案内	江戸東京博物館案内パンフレット	日本語版 500,000部 英語版 20,000部
定期刊行物	江戸東京博物館ニュース	年4回発行 延280,000部
取材対応		812件 ※申請件数に基づき取材対応を行った件数
インターネット ホームページ	日本語版、英語版、中国語版、 ハングル版 キッズサイト	アクセス件数 12,983,417件
メールマガジンの 配信	江戸東京博物館ニューズレター	年12回配信 (17年3月現在) 4,014通
広告の掲載	Jセレクト すみだTOWN情報紙 「博物館研究」	年6回掲載 年12回掲載 年12回掲載

(2) 分館

種 別	名 称	実 績
館内案内 ガイド	江戸東京たてもの園 案内リーフレット	60,000部
定期刊行物	たてもの園だより	年2回 延 70,000部

15 地域子ども教室推進事業

(1) 本館

平成16年度より文部科学省では、放課後や休日に、地域の大人の協力を得て、「子どもの居所」をつくり、スポーツや文化活動など多彩な活動が展開されるよう、家庭、地域、学校が一体となって取組む「子どもの居場所づくり新プラン」を実施している。

江戸東京博物館においても、財団法人日本博物館協会を通じてこの取り組みに参加した。特に、常設展示室体験コーナーにおいて、平日の午後、授業終了後、地域の子どもの居場所となるような取り組みである「放課後の居場所づくり」をふれあいスタッフによる企画運営を中心に月3～4回、のべ40回開催した。内容は昔遊びのほか、「和算で遊ぼう」「風車をつくろう」「着物体験」など。

期 間 平成18年4月1日(土)～平成19年3月31日(土)
会 場 江戸東京博物館 常設展示室
受 講 料 なし

参加者数 延べ1,459人

(2) 分館

①江戸東京寺子屋実行委員会「武蔵野えどまる団」

文部科学省が推進している「地域子ども教室推進事業」の一環として、“遊び”を軸にし、江戸東京たてもの園のボランティアや近隣のサークル、大学生などの地域諸団体と実行委員会を組織し、〈子どもの居場所〉を作る活動を展開した。

内 容

指令 19	平成 18 年	4 月	かえっこバザール in たてもの園
指令 20		5 月	たてもの園えどまる王国化計画 ー再燃！われらの国王選挙戦ー
指令 21		6 月	えどまるカップ ケッポリアイス
指令 22		7 月	ガンガン THE 盆踊り
指令 23		8 月	えどまる本舗～商人の血
番外編			地球を救え！打ち水大作戦&ふろしき体操
番外編			地球を救え！風呂敷ぐるっとたてもの園～親子で楽しむ風呂敷講座
指令 24		9 月	風雲えどまる城〈夏の陣〉 ー俺たちの夏はまだ終わらないー
番外編			オリジナル風呂敷を作ろう
指令 25		11 月	落ち葉プール
指令 26		12 月	風雲えどまる城～決戦！小出ヶ原の巻
指令 27		平成 19 年 1 月	新年祝賀祭 大カルタ大会
指令 28		2 月	風雲えどまる城〈冬の陣〉
指令 29		3 月	えどまる本舗ー商人の血

16 高齢者元気プロジェクト

高齢化社会における博物館の新たな取り組みとして、平成 16 年度より 2 年間にわたり、東京都老人総合研究所などと「博物館資源（資料・人・場）」を活用して高齢者の心身の健康増進を目指す共同研究事業「高齢者げんきプロジェクト」を推進し、「博物館資源」を活用した介護予防プログラム「地図づくりプログラム」を作成した。

また、博物館関係者、福祉施設関係者、行政職員、ボランティアなどさまざまな分野・職種を対象としたシンポジウムを開催した。

平成 17 年度までの上記活動について、第 3 回日本認知症ケア学会読売認知症ケア賞「奨励賞」に応募したところ受賞が決定し、9 月 30 日（土）、札幌コンベンションセンターにて行われた第 7 回日本認知症ケア学会大会にて受賞した。

また、平成 17 年度に行った国際シンポジウムをきっかけに、イギリスホーニマン博物館よ

り招聘を受け、所蔵の日本コレクションの調査、レミニセンス実践に関する現地調査等を以下のとおり行った。

(1)目的と成果

- ①ホーニマン博物館（イギリス）の Japan Project の一員として、ホーニマン博物館が所蔵する日本コレクションを調査・研究し、海外巡回展を企画して江戸東京博物館で開催する。同時に図録、出版物を発行する。イギリスと日本の博物館の交流を深め、展覧会、セミナー、ワークショップの共同開催など継続的な協力関係を築く
- ②江戸東京博物館の教育普及事業の充実を図るため、教育普及活動が盛んなホーニマン博物館において実践例を学ぶ
- ③平成16、17年度に江戸東京博物館で実施した「高齢者げんきプロジェクト」の成果を踏まえ、イギリスの博物館で実践され効果を上げているレミニセンスについて現地調査をおこない、当館の高齢者事業の一層の発展を図る
- ④特別展「夏目漱石展」の資料調査

(2)派遣職員

江戸東京博物館 事業企画課 展示係 専門調査員 橋本由起子

(3)期 間

平成18年8月4日（金）から9月2日（土）

(4)場 所

ホーニマン博物館

100 London Road, Forest Hill, London SE23 3PQ, United Kingdom

レスター大学

103-105 Princess Road East, Leicester LE1 7LG

ロンドン漱石記念館

80b, The Chase, London SW4 0NG, United Kingdom

(5)旅費・滞在費

ホーニマン博物館 Japan Project より支給

17 両国協力会等による地域活性化の推進

両国協力会は、両国を地盤とする地元企業、施設が、両国の活性化と未来の両国を考え、さまざまな活動を展開していく自主的な任意団体である。両国の魅力を多くの人に伝えるため、平成18年度は、国技館通り、国技館、回向院、江戸東京博物館3Fひろばなどでの「両国にぎわい春祭り」開催と周辺のお食事処を掲載した「両国にぎわいマップ」を制作した。

(1) 両国協力会構成団体

東京水辺ライン、J R 両国駅、都営大江戸線両国駅、第一ホテル両国、回向院、東京東信用金庫、パールホテル両国、国技館サービス、日本相撲協会、両国アクアハウス江戸遊、ザ・ホテル ベルグランデ、東京都江戸東京博物館

(2) 第4回両国にぎわい祭り

期 日 平成 18 年 4 月 29 日(金)～5 月 1 日(日)
会 場 江戸東京博物館 3 階ひろば
主 催 両国にぎわい祭り実行委員会、両国協力会
後 援 墨田区、墨田区文化観光協会、読売新聞 東京本社
特別協賛 (株)新藤
協 賛 東京東信用金庫、アサヒビール(株)、鹿島建設(株)、ライオン(株)、
チムニー(株)
協 力 総合警備保障(株)、日通航空、両国連合町会、千歳連合町会
内 容 ちゃんこミュージアム、大江戸ダンス、雅楽演奏、相撲体験コーナー、
相撲甚句、フリーマーケット、大ガラクタ市、両国ぶらり散歩ツアー、
など
入場者 約 9 2, 0 0 0 人

(3) 両国にぎわいマップ制作

制 作 両国協力会
企画発行 江戸東京博物館
発行日 平成 18 年 12 月
発行部数 2 0 0, 0 0 0 部
掲載店数 110 店舗 (うち写真入り 29 店舗)
配布場所 J R 両国駅・国技館・江戸東京博物館をはじめとする両国協力会各社と
マップ掲載店

(4) たてもの園協力会

当園と公益法人小金井市商工会が共同出資して、ボランティアや地元商店の協力により、催事や土曜日曜祝日に飲食のサービスや物販の販売を行った。